

An Ainu Folktale

# Ubayuri

Retold by KAZUKO INADA  
Translated by TADAAKI MIYAKE  
Illustrated by NAHO INADA

いなだ かずこ：さいわ  
みやけ ただあき：やく  
いなだ なほ：え





This is a tale told by an *Ainu*\* woman.  
これはアイヌの おんなのひとが してくれた はなしです。



*Ainu*\*: Among earliest native people of Japan now inhabiting only some parts of Hokkaido

**My husband and I were very poor in those days.  
My husband went hunting but got very little.  
I myself tilled the field but got just a little.  
We had no clothes but the ones we always wore.**

わたしとおっとは たいへんびんぼうな 暮らしをしていました。  
おっとは かりにいても えものはなく、  
わたしが はたけに なにか まいても、とれたのは ほんのすこし、  
きものは ふたりとも きているのが いちまい あるだけでした。



One day I went into the mountain to find herbs.  
I was sitting under a big tree, when

やそうでもみつけて たべたいとおもって でかけて、  
おおきなきのしたで やすんでいると

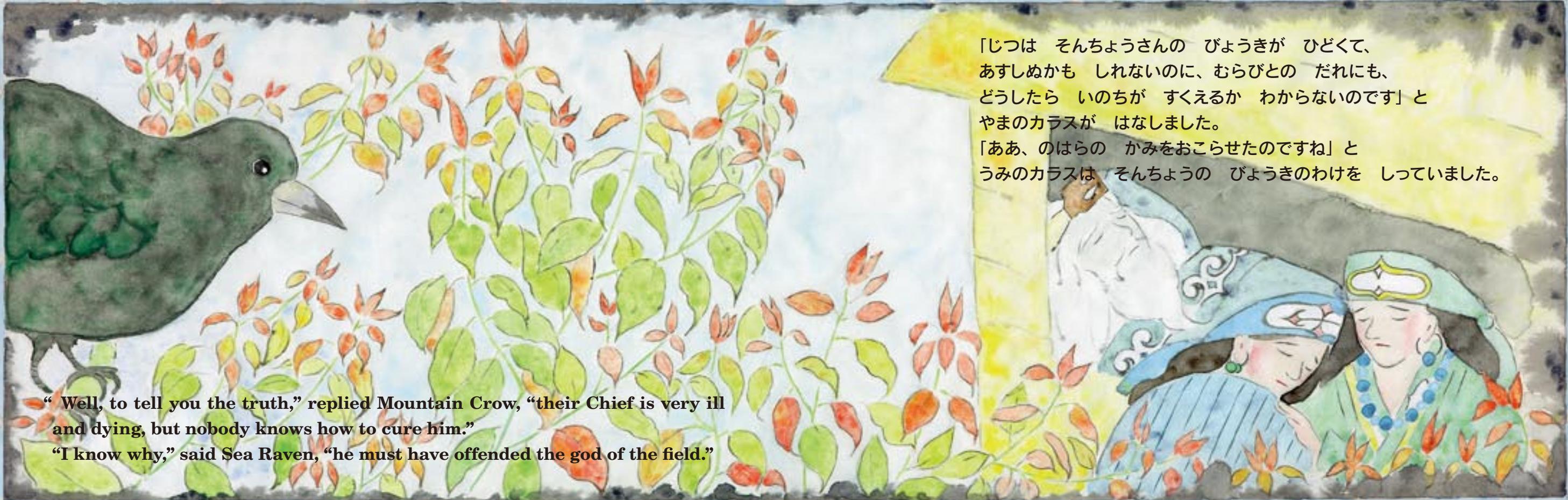




a mountain crow and a sea raven came flying along and perched on a branch overhead. I heard them talking to each other. Oh, I must tell you I understand bird language. "Mr Sea Raven, are the *Ainu* on the beach getting along well?" asked Mountain Crow. "Oh, they are all well," said Sea Raven. "What about the mountain *Ainu*?"

きのえだに やまのカラスと  
うみのカラスが  
とんできて とまり、  
こんなはなしを はじめました。  
わたしには とりのことばが  
わかるのです。  
やまのカラスが「うみのカラスさん。  
はまべのアイヌは げんきですか」と きくと、  
うみのカラスは「はい。みんなげんきです。  
やまのアイヌの みなさんは どうですか」と たずねました。



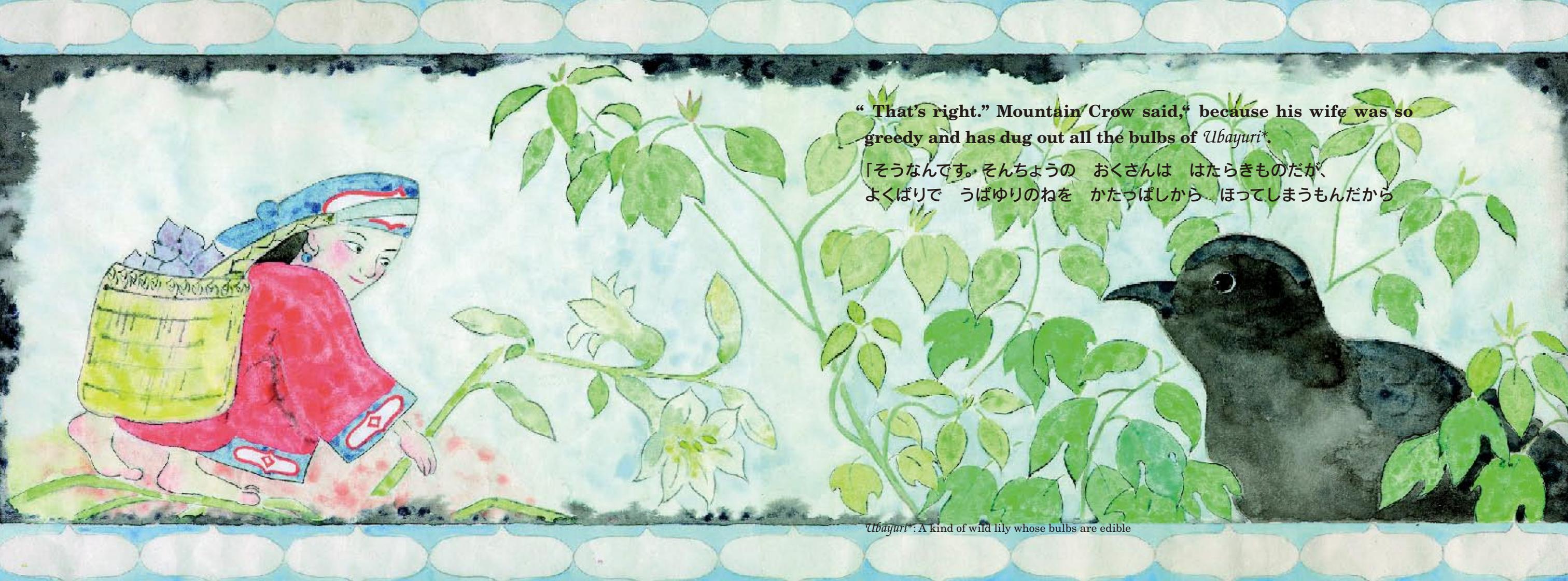


“ Well, to tell you the truth,” replied Mountain Crow, “their Chief is very ill and dying, but nobody knows how to cure him.”

“I know why,” said Sea Raven, “he must have offended the god of the field.”

「じつは そんちょうさんの びょうきが ひどくて、  
あすしぬかも しれないのに、むらびとの だれにも、  
どうしたら いのちが すくえるか わからないのです」と  
やまのカラスが はなしました。

「ああ、のはらの かみをおこらせたのですね」と  
うみのカラスは そんちょうの びょうきのわけを していました。



“That’s right,” Mountain Crow said, “because his wife was so greedy and has dug out all the bulbs of *Ubayuri*\*.”

「そうなんです。そんなふうのおくさんははたらきものだが、よくばりでうばゆりのねをかたっぱしからほってしまうんだから

*Ubayuri*\*: A kind of wild lily whose bulbs are edible



**The offended god has made her husband so ill.”**

**The two continued to talk.**

**“Soon the wife, too, will fall ill and die, if they do not realize the cause. The only way out is to construct Inau\* and pray to them and apologize to the god.”**

**“It’s a shame that none of the *Ainu* know that.”**

のはらの かみがおこって、そんちょうを びょうきにしましたのです」と  
やまのカラスがいました。

にひきの カラスは なおも はなしつづけました。

「いまのままなら、おくさんも びょうきになって ころされるでしょう。

アイヌのひとたちが このことに きがついて、イナウを つくって おがみ、  
かみにあやまれば、そんちょうの びょうきを なおせるのに」

「アイヌの にんげんには それがわからないのです」

*Inau*\*: A kind of primitive altar worshiped at by the *Ainu*

When I told my husband what I had learned from the birds, he said, "Let's go to the Chief's house right now and let them know. You yourself should tell them directly what you have heard. I'll be waiting outside."

Then we went together to the Chief's house.



わたしが とりから きいたことを おつとにつたえると、  
おつとは こういって、すすめました。  
「すぐ、そんちょうのところへ しらせにいこう。  
おまえが カラスの はなしを きいたのだから、  
おまえの くちからいいなさい。  
ぼくは おもてで まっているから」  
それから ふたりで そんちょうの いえにいくと

On seeing us, the servants said, "This is no place for such poor people as you. Go away at once!" But I insisted. "We have brought some very important news for the Chief whereby he may recover from his illness."

Finally I was permitted to come into the house.



でてきたひとは わたしたちを ひとめ みるなり  
「ここは おまえらみたいな びんぼうにんの くるところでない」と  
けいべつして、いえに いれてくれません。  
けれども わたしが「そんちょうさんに たいせつな しらせを もってきたのです。  
ごびょうきが なおるかも しれませんが」と いうと、やっとなかに いれてくれました。



I told them what the birds had said and then asked, "Would you follow the birds' advice and calm the anger of the god?"

そこでわたしは カラスのはなしをつたえ、  
「カラスの いった とおりにして、  
のはらの かみの いかりをしずめてください」と  
おねがいました。

They constructed Inau right away and prayed. "Oh, God of the Field, please calm your anger. We won't be so greedy any longer. We won't dig any more bulbs than we really need."



そんちょうの いえでは、すぐさま イナウをけずって  
「のはらの めしのかみさま、もう けっしてよくばって  
とりすぎることは しませんから、いかりを おしずめください」と  
いのったところ

The Chief got up as if he had never been ill at all.  
How delighted all the *Ainu* were as well as the Chief's wife!  
They could not have been more grateful to the god.

そんちょうは、いま めがさめたというように  
おきあがって、げんきになりました。  
そんちょうの つまも ほかのアイヌも ころから  
かみに かんしゃし、よろこびあいました。





**We were presented by the Chief's family with a lot of warm clothes. From that day on, I have kept saying to the people around me, "Don't take all away from the field. Never fail to leave some for the god, for he too lives on the plants of the field."**

わたしたちは そんちょうのいえから、  
あたたかい よいきものを たくさんもらいました。  
それいらい わたしは いつも  
「のものを ねだやしに とってはならない。すこし のこしておけ。  
かみも ひととおなじように たべものによって いきているのだから」  
と



## ●お礼とおねがい

この度は、「子ども達に絵本を贈る運動」にご参加いただきありがとうございます。

私たちは、心のふれ合う機会が少なくなった日本の子ども達と、絵本を手にする機会の少ない開発途上国の子ども達のために、今後も継続的な活動を展開したいと思っています。

この絵本をお子さんの意志で、フィリピンの子子ども達に贈っていただくよう保護者の皆様にご指導いただければ幸いです。大切なものだからこそ、心をこめて人にプレゼントすることの尊さを知ってほしいのです。

子ども達の明るい未来のために…。

「リコーダーをおくる会」代表 黒住宗道

THE CHILDREN'S CULTURAL ASSISTANCE



This picture book is presented for you, by Japanese children, through  
THE CHILDREN'S CULTURAL ASSISTANCE.

現代の日本人が失いつつある自然と共に生きる知恵を伝えた、アイヌの昔話「ウバユリ」をお届けします。フィリピンの子子ども達に日本にも、このような知恵があることを知ってもらえれば幸いです。また、食物が自然の恵みから、商品になってしまった日本の子ども達にも、伝えていきたいメッセージを込めています。物質的な豊かさを追い求めることも、貧しさの裏返しかもしれません。物の豊かさより、心の豊かさを大切に作る世界がつくれればと思います。そのためにも、子ども達が多くの正しい知識が持てる環境をつくり、広い視野を育ててあげることが必要ではないでしょうか。

理屈は抜きにして、お子さんとお楽しみください。絵本を読んであげることは、忙しい現代に手間なことです。手塩にかける（自らめんどうをみて大事に育てる）子育てが、いじめや児童虐待などを減らすことにつながるかもしれません。コンピューターが子ども達の成長に与える影響を気にしながら、本好きの人間が、コンピューターで編集、レイアウトをしています。

たいていの子どもは、大人よりたくましいと楽観的に考えながら。

みなさまの、ご意見、ご感想をお待ちしております。

編集部

## ●贈る絵本 第4号 「ウバユリ」

“Ubayuri” Japanese Text © 1996 Kazuko Inada. English Text © 1996 Tadaaki Miyake. Illustration © 1996 Naho Inada.

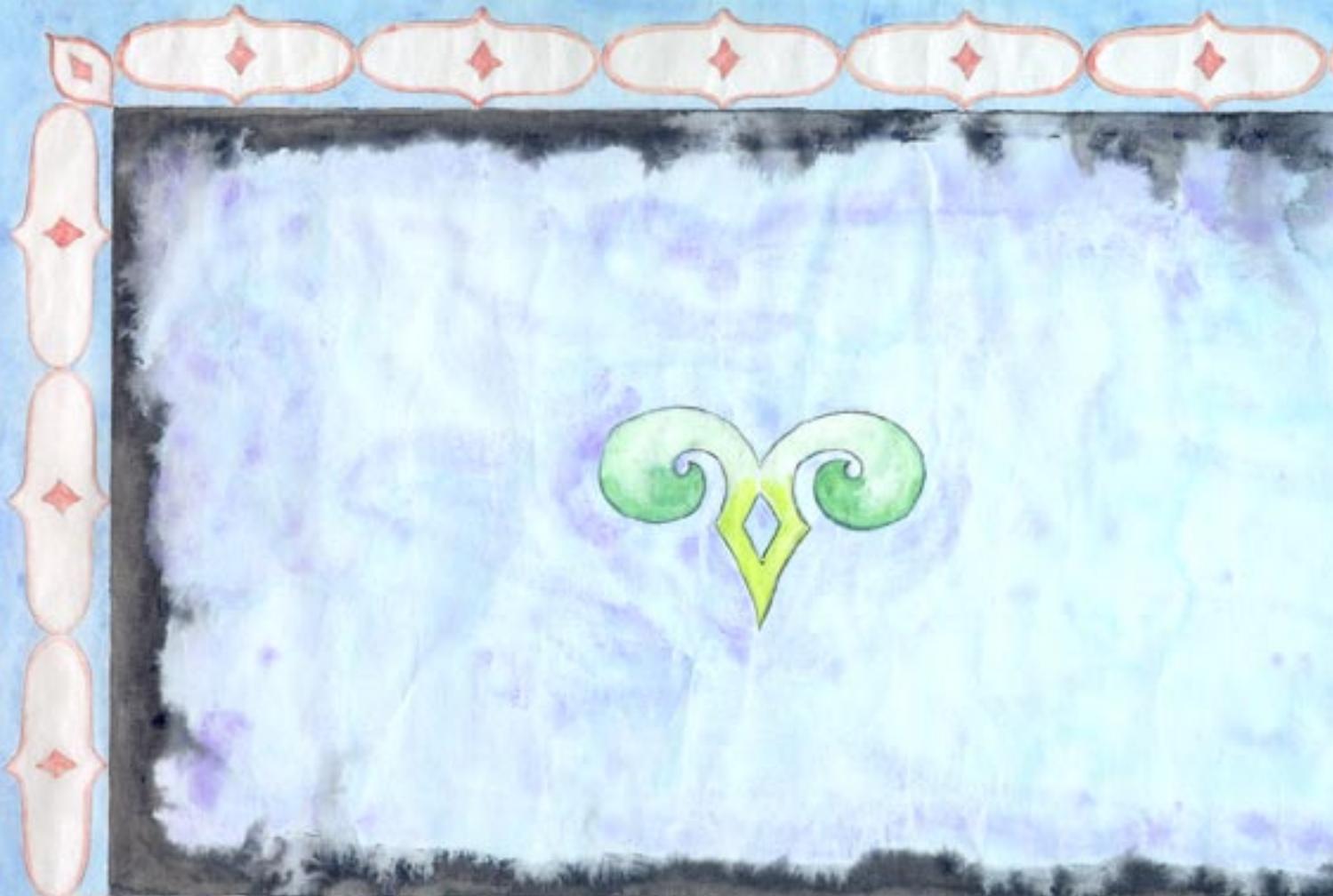
1996年6月20日初版発行 編集・発行人 鎌田栄治／発売人 河口純一郎

編集・発行所 有限会社アルコプランニング〒710-0826 岡山県倉敷市老松町2-6-32 Tel.086-430-3350

発売 有限会社温羅書房／印刷 コーホク印刷株式会社／製本 日宝綜合製本株式会社

この作品を許可なくして転載・上演・放送しないこと／万一不良本がありましたら、お取り替えいたします。





Published by Alko-Planning, Ura Shobou, Okayama, Japan. Printed by Kohoku Printing Co., Ltd., Okayama, Japan.

ISBN4-900907-08-1 C8793 ¥1000E 発売 ▲ 温羅書房 定価 1,050 円 (本体 1,000 円 + 税)